

生ごみ堆肥を使用して 屋上で野菜作る



…のその後

クリーンむさしのを推進する会 会長
ごみ・環境ビジョン 21 運営委員

志賀 和男

クリーンむさしのを推進する会が活動する東京都武蔵野市では、今年4月、新しいごみ処理施設「武蔵野クリーンセンター」が稼働を開始しました。新施設の焼却炉は旧施設の3炉より2炉にスケールダウンしたことから、今まで以上にごみの減量が重要性を増しています。

可燃ごみ中の生ごみの占める割合は40%を超えてきていることから、当会の活動の中でも生ごみ減量はたいへん重要な活動です。

具体的には、市民へのモニターから始まってすでに8年の歴史がある「段ボールコンポスト」の普及が、まず挙げられます。

もうひとつは、地域分散型（現在9カ所）で行われている「生ごみ堆肥化と野菜作り」で、市民農園・小学校・保育園・高齢者福祉施設・障害者施設などで行われています。

今回ご紹介するのは、このうち3カ所で行っている屋上での生ごみ堆肥を使った野菜作りです。ご承知の通り、武蔵野市は23区と接していて、都市化が進んでおり、屋上での取り組みは必然的に始まったと思っています。

生ごみ堆肥を使っただけの屋上菜園は、ごみかんの生ごみリサイクル交流集会でも発表しており、「その後上手くいっているの？」と聞かれることも多いので、最近の状況を報告したいと思います。

ひと言で言って、屋上での野菜作りなど経験のない市民の手で行われており、試行錯誤の連続です。

その担い手となるメンバーにしても、当会の会員、行政との協働事業として毎年行っている連続環境講座受講者、協力関係にある活動団体会員、口コミとあらゆる場で探してきました。

1 まちの保育園

保育園

地域に根差し、地域と連携する新しい形の保育園「まちの保育園」が数年前に開園しました。

園舎の屋上に作られた菜園で「生ごみ堆肥を使った野菜作りをしたい」ということで、当会へ支援要請が来て、つながりができました。

生ごみは、園児が家庭から持ってきます。それを土ごと発酵でたい肥化し、土の中でたい肥となったところで野菜を植え、水やりと草取りなどの世話をすべて園児の手でやるというものです。これを当会の支援で1シーズン行いました。

その次のシーズンからは、園のスタッフが独自に研究し、さらに園児に考えさせて、運営は原則的に園で進めています。従って、現在は当会は継続した支援は行っておらず、必

要な時に出向くという関係で進めています。スタッフも園児もとても熱心で、特に園児の作業に対する集中力はとても高いと見受けています。会として、今後の推移を見つめていきたいと考えています。



2 ベジタブルガーデン

武蔵野クリーンセンター

今春スタートした新クリーンセンター屋上に野菜農園が設置されました。近隣住民から持ち込まれた生ごみで堆肥を作り、これを中心とした堆肥を使っています。

- ・活動開始：平成29年3月
- ・農園のスペース：約150㎡
- ・使用する土壌：深さ20cmで、軽量土壌（黒土の1/2の比重）を半量使い、ここに黒土・腐葉土・生ごみ堆肥・牛ふん堆肥、カキ殻石灰を投入
- ・作業協力者：登録上は25名ほどだが、継続して参加できるメン





バーは 15 名程度。全員野菜作りを楽しんでやれるメンバー

- ・堆肥場：最近クリーンセンターの敷地に堆肥ボックスができあがった。今後、当面 20 所帯を目途に生ごみを提供してもらい、腐葉土と牛ふん堆肥の混和物を基材として堆肥化を進める

菜園づくりはクリーンセンター稼働前の本年 3 月にスタート。前述の土壌の混和から始まり、ここの一画にジャガイモを植えました。

引き続き、夏野菜を順次植えて、畑はすっかり形ができたのですが、5 月後半から 6 月にかけて、夏野菜の元気がなくなり、地温を計ったところ 50℃を超える場所が出てしまいました。日当たりの良い屋上で、水やりが十分できていないことと、コンクリートの建物は放熱しにくい上に燃焼炉の熱の伝播が重なって、地温上昇という結果になったと考えています。

すぐにできることといっても水やりくらいしか考えられず、スプリンクラーを設置して、8 割ほどの畑をカバーできる体制を整え、夏野菜のほとんどを植え替えました。試行錯誤の連続ですが、これで夏野菜は生き返りました。

これ以外にもたくさんの反省点が出ており、作業協力者の英知を持ち寄り、次年度の体制固めをしていか

なければなりません。

さらに、これからの課題は敷地内の堆肥場での生ごみ堆肥化を軌道に乗せることです。

苦労はしましたが、12 月にベジタブルガーデンの初めての収穫祭があり、とても楽しみです。



3 ぐっどういる境南

高齢者福祉施設

運用開始 18 年を経過するデイケアの高齢者施設の地域包括ケアシステムの取り組みの中で、野菜作りが取り上げられました。

ここは設立時より屋上に畑がありましたが、職員の手で畑を維持することができなくなり、当会に協力依頼が入りました。

- ・活動開始：平成 28 年 8 月、28 年度は試験栽培を行い、本格開始は平成 29 年 3 月

- ・農園のスペース：約 50㎡。この内、約 1/3 は花壇として使用

使用する土壌：深さ 20cm で、ベースは黒土 100%、これに腐葉

土・生ごみ堆肥・牛ふん堆肥・カキ殻石灰を投入している（軽量土壌は使用せず）

作業協力者：当会メンバー 8 名

堆肥場：神奈川県葉山町の「キエーロ」と同様の堆肥ボックスを製作して使用。基材は黒土を使い、施設で出る生ごみを全量堆肥化。



本年 3 月から試行してきたが、ベジタブルガーデンとは違い、屋上は当初より畑を作る施工になっているので、土は全量黒土を使えるところがありがたい。

農園の大きさも地域の取り組みとして行うのにちょうどよいサイズで、少数精鋭で作業しています。

高齢者施設ということから、いつでもお年寄りに楽しんでもらえるよう花壇と野菜畑を併設し、収穫時は作業に参加してもらいます。収穫作業で見られるお年寄りの笑顔は何にも増して、最高のものだと思っています。



水はけ、虫・鳥対策などの課題がありますが、週 1～2 日の作業時にはほとんどのメンバーが参加しており、現場で作業しながら対策を語れるという距離感で進められることが、とてもやりやすいと考えています。

さらに兄弟施設からの協力の要請も入っています。